

海鹿ト云大魚二三百モヤアルヤラン、鹽フキ立テ食テ來ル、安倍晴延ト云、小博士ヲ召テ、イカナルベキゾト尋給フ、晴延占文披ヒテ、此海鹿食返バ源氏ニ有疑食通バ御方ニ無憑ト申ケルニ、此魚一モ不食返平家ノ船ノ下ヲツイクマリ、ツイクマリ、食テ過ヌ、小博士今ハカウ候トテ涙ヲハラハラト流シケレバ、人々聲ヲ立テゾオメキ給フ、

〔倭名類聚抄十九〕鮒 食療經云、鮒委音一名黃頰魚

和名

之比

爾雅注云、大爲王鮒、小爲叔鮒

〔箋注倭名類聚抄八〕按毛詩、魚麗于罶鱸、正義引陸璣疏云、鱸一名黃頰魚又東山經云、番條之山減水出焉、其中有鱐魚、一名黃頰、未聞鮒又名黃頰、不知食療經何據略中按呂氏春秋注、鮒魚似鯉而大、禮記正義引郭注、爾雅云似鱸而小、建平人呼鮒子、一本云、王鮒似鱸、口在領下、音義似鱸、長鼻、體無鱗甲、毛詩正義引陸璣疏云、鮒魚形似鱸而青黑、頭小而尖似鐵兜鍪、口亦在領下、其甲可以摩蠻、大者不過七八尺、益州人謂之鱸鮒、肉色白、味不如鱸也、鮒未詳、然據口在領下、其甲可以摩蠻、肉色白、則鮒魚之類、非之比、訓鮒爲之比、未允、之比、万具呂之屬、嶧山君曰、大倉州志金鎗魚可以充之里、

〔類聚名義抄十〕黃頰魚 シビ 鮒音委、シビ

名黃頰魚

〔下學集上氣形〕鮒

シビ

鮒

音鮒

魚

シビ

類

聚

名

義

抄

十

〔物類稱呼二〕王鮒亥び

動物

王鮒亥び

畿内にてはつと稱す、江戸にてまぐろとよぶ江戸にてまぐろのすき

みといふものを、畿内にてはつのみと云、又江都の魚店にて亥び、まぐろ、びんなが等の品有といへども、東國の俗皆まぐろと云、然共至て大なるなし、むかしは注都の魚市にて、まぐろを賣買ふこと有しが、近來は來らずとなん、又びんながといへる物は、あぶらを去て肉糕かまほことなすもの也、又二尺以下の小なるを、江戸にてめじかと云、一名そだと云、ひらそだ丸、そだなど二種有、京